



♡ことばの力 ♡からだの力 ♡こころの力

## 園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 平成27年2月6日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園  
総合学園幼稚園の

～ 子どもは違う、保護者も違う ～



「お互いさま」というけれど

親としての「覚悟」はできていますか？

「人の振り見て我が振り直せ」と昔から言われます。他人のことはよく見えますが見えていないのが自分のこと。我が子ともなればなお更のことです。

思い出すのは、わが子の小学校での個人懇談会。どきどきわくわくしながら学校に向かったのですが、担任から言われた第一声、「お母さんは学校の先生だから、もうよくお分かりだと思いますが。」でした。「いいえ、ちっとも分かっていません。」と思わずするような気持ちでわが子の様子をお尋ねしました。

家での限られた人間関係の中でのわが子しか知らないのです。多少のわがままも、『可愛い』の一言で済まされる環境、その中でのわが子しか知らないのは当然です。一歩外に出たら、周りの子どもたちとどのように過ごしているのか、どんなやりとりをしているのか、それは望ましい成長としてとらえていいのかなど、客観的に見ている先生には厳しいことも含めて教えてほしいのです。皆さんもそう思われませんか。実は親として猛省することも多々ありました…。

よくこんなことがありました。家では『とても優しい子』ですが。わが子に限ってそんなことはしない。ところが果たして？学校では意地悪をしたり、暴力的だったり、うそをつき通したり。信じたくない気持ちは理解できますが、事実は事実。事実にきちんと向き合う覚悟が保護者には求められるのです。ここから本当の子育てが始まるからです。

しかし、何もかも外(自分以外)のせいにする保護者に出会ったこともあります。

「えっ？学校のガラスって割れるんですか？危ないじゃないですか！」わざと叩いて割った5年生のわが子の危険な行動をとがめずに。「あんたがいらんことするから、弁償しなあかんやろ！」これでは子どもの望ましい成長は期待できませんね。

どんな理由があろうとも、相手の子や保護者に謝罪するのは『当たり前のこと』です。親になったその日から、わが子の失敗も丸ごと受け止めて世間さまに向き合う『覚悟』が必要なのです。

一方、相手から謝罪の気持ちを真摯に伝えられてこそ、怒りや悲しみのころから、『お互い様ですから』という親として相手の立場を思いやるころへと変われるのではないのでしょうか。

幼稚園では、自分の感情を上手に表現できずに、トラブルになることが多々あります。でもこれは貴重な経験です。しかし、怪我をさせたり、ものを壊したりしたときは厳しく叱ります。そして、保護者の皆さまに必ずご連絡しますので相手方へのご連絡をお願いします。

よりよい学びの場となるよう、幼稚園ではより多くの目で子どもたちに向き合えるように、今後もひきつづき指導体制の工夫充実に努めてまいります。

年少組の生活発表会が4日(水)に実施されました。最近写真撮影のためでしょうか、拍手が少ない傾向が見られるのでお願いしたところ、大きな拍手と手拍子をいただきました。ありがとうございます。おかげさまで子どもたちも大満足でした。

これからも、幼稚園と家庭での「生活」がよりよく結びつきますよう、よろしく願いいたします。